

## 統計研修講義計画書

|      |                     |      |           |      |     |
|------|---------------------|------|-----------|------|-----|
| 研修課程 | 国民・県民経済計算           | 講義科目 | 県民経済計算の概要 | 講義時間 | 7コマ |
| 講師   | 櫻本 健<br>立教大学経済学部准教授 |      |           |      |     |

※1コマ70分

### 講義のねらい

県民経済計算は、国民経済計算の地域版として地域の経済動向を分析する際に広く用いられる。内閣府の「推計マニュアル」に基づき、県と政令市が主体となって推計されている。県民経済計算は地域で注目される統計であるが、どこの自治体も担当者の統計の専門性を維持しながら、根拠がある頑健な推計値の実現に苦勞している。推計上の問題は事例を学んで専門性を高め、国との連携で解決できる。

国連の国民経済計算では、地域経済計算はサテライト勘定の一つに位置付けられている。推計原理と事例から県民経済計算の概要について理解を深めるとともに、地域の経済構造を分析するための具体的な方法論について学ぶことがこの講義のねらいである。

### 指導項目と内容

| 指導項目                     | 内 容   |
|--------------------------|---|
| 1. 国民経済計算の予備知識           | 県民経済計算の元となる国民経済計算の歴史的経緯、基本原理(体系の原則、部門分類、実質化とデフレーター)と主要計数の特徴を取り上げる。  |
| 2. 県民経済計算作成の体制とそれを取り巻く課題 | 統計法に基づく統計作成の体制、国民経済計算分野での分担と自治体による県民経済計算を整備と事例を取り上げ、全体像を理解する。次に基礎統計の劣化やグローバル化といった、さらされる重要な課題について取り上げ、専門的に迷った場合の情報の探し方を解説する。                                 |
| 3. 県民経済計算における統計作成実務      | 経済統計としてデータを扱う際の基本概念を学びつつ、データを用いて利活用も視野に入れながら演習する。時系列データの基礎(5年毎、年次、四半期データ、年率換算、平均成長率)、基礎統計との関係、平滑化と分割、基準改定・遡及改定、供給使用システム(コモ法、付加価値法、バランス)、改定差といった問題について取り上げる。 |

### 講義形態 指導方法

概念の説明は講義形式で行い、適度にパソコンを用いて演習します。

### 受講に必要な 基礎知識等

初歩から説明しますので、基礎知識は必要ありません。